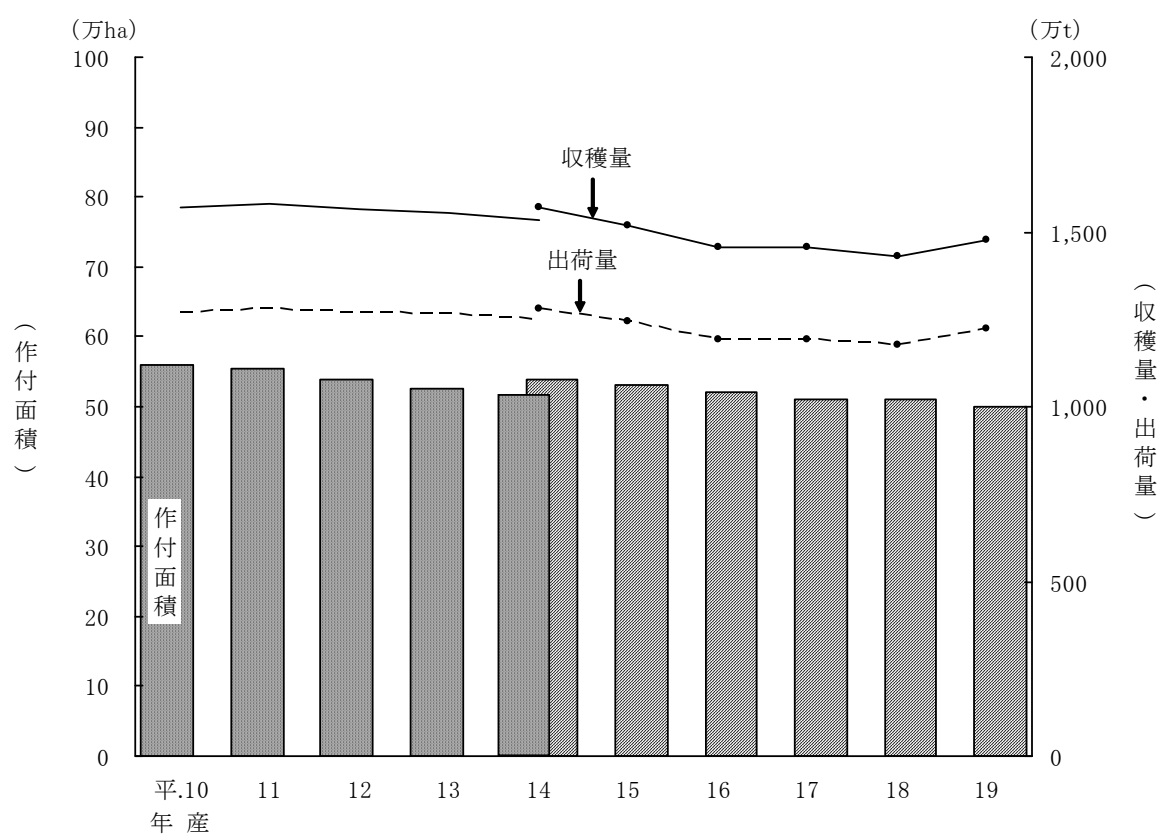


1 要 旨

平成19年産の野菜（39品目）の作付面積は50万3,400ha、収穫量は1,474万6,000 t、出荷量は1,223万 tであった。

図1 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量




注) 平成14年産から葉茎菜類8品目（こまつな、ちんげんさい、ふき、みつば、アスパラガス、しゅんぎく、にら及びにんにく）、果菜類1品目（そらまめ）及び香辛野菜（しょうが）を新たに追加し、39品目となったため、図中、平成14年産については29品目で再集計して過去8年間と同様に表し、平成14年産以降、39品目計の作付面積を「」、収穫量及び出荷量を「・」で表した。

表1 平成19年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考) 平均収量 対比
					作付面積	10a当たり 収量	収穫量	出荷量	
計	503 400 ^{ha}	… ^{kg}	14 746 000 ^t	12 230 000 ^t	100	…	103	104	…
根 菜 類	184 400	…	5 909 000	4 783 000	100	…	105	106	…
だいこん	37 200	4 370	1 626 000	1 258 000	97	101	99	100	104
かぶ	5 360	2 970	159 300	128 500	99	106	106	107	103
にんじん	19 100	3 490	665 900	584 800	102	105	107	107	109
ごぼう	8 800	1 850	163 100	136 200	101	101	102	104	103
れんこん	4 060	1 430	58 200	47 100	98	101	100	101	93
ばれいしょ (じゃがいも)	87 400	3 290	2 873 000	2 370 000	101	108	109	111	101
さいも	14 100	1 230	173 200	104 300	98	102	99	102	100
やまのいも	8 250	2 310	190 400	154 500	97	103	99	100	105
葉 茎 菜 類	179 200	…	5 394 000	4 586 000	100	…	101	102	…
はくさい	18 700	4 910	917 500	704 700	97	100	97	99	105
こまつな	5 730	1 620	92 700	77 500	101	101	102	104	99
キャベツ	32 700	4 160	1 359 000	1 183 000	99	100	99	100	103
ちんげんさい	2 350	2 080	48 900	42 400	101	100	101	102	98
ほうれんそう	22 900	1 300	298 200	241 900	98	102	100	101	102
ふき	741	2 190	16 200	13 400	107	89	96	98	91
みつば	1 210	1 470	17 800	16 700	98	99	97	97	100
しゅんぎく	2 440	1 650	40 300	32 200	98	102	100	101	101
セリ	669	5 280	35 300	33 400	98	103	101	101	103
アスパラガス	6 530	476	31 100	26 900	102	107	110	111	107
カリフラワー	1 410	1 800	25 400	20 400	101	95	96	98	98
ブロッコリー	11 900	1 050	125 000	109 900	104	98	102	104	102
レタ	20 900	2 600	543 700	509 700	100	100	100	100	103
ねぎ	22 500	2 200	494 800	385 900	99	102	101	102	102
にら	2 160	2 960	63 900	57 600	98	104	102	103	101
たまねぎ	24 300	5 210	1 265 000	1 118 000	103	106	109	110	107
んにく	2 030	946	19 200	12 300	104	97	101	106	97
果 菜 類	109 300	…	2 566 000	2 094 000	99	…	103	104	…
きゅうり	12 800	5 010	641 000	539 800	98	104	102	103	101
かぼち	17 200	1 330	228 000	173 700	102	102	103	105	96
なす	10 800	3 440	371 800	278 100	97	103	100	101	100
トマト	12 700	5 900	749 200	663 800	98	104	103	103	101
ピーマン	3 500	4 270	149 600	128 300	99	103	102	102	103
スイートコーン	25 600	1 000	256 700	198 200	101	110	111	112	103
さやいんげん	7 040	695	48 900	30 700	98	103	100	101	97
さやえんどう	4 380	628	27 500	17 300	98	103	101	104	100
そらまめ	2 520	853	21 500	15 200	99	107	106	106	102
えだまめ	12 800	557	71 300	48 900	99	102	100	103	93
香 辛 野 菜									
しょうが	1 870	2 280	42 700	31 100	103	108	112	116	107
果 実 的 野 菜	28 700	…	834 300	735 500	97	…	101	101	…
いちご	6 580	2 910	191 400	173 400	97	104	100	100	103
メロン	9 530	2 320	221 300	201 100	97	105	102	102	102
すいか	12 600	3 350	421 600	361 000	97	104	101	101	101

2 指定野菜の品目別の概要

(1) だいこん

ア 作付面積

作付面積は3万7,200haで、前年産に比べて1,100ha(3%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,370kgで、前年産に比べて1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は162万6,000tで、前年産に比べて2万4,000t(1%)減少した。

出荷量は125万8,000tで、前年産並みであった。

エ 季節区別の概況

(ア) 春だいこんの作付面積は5,010haで、前年産に比べて40ha(1%)増加した。

10a当たり収量は4,930kgで、前年産に比べて6%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は24万7,000tで、前年産に比べて1万5,900t(7%)増加し、出荷量は21万7,800tで、前年産に比べて1万5,600t(8%)増加した。

(イ) 夏だいこんの作付面積は7,400haで、前年産に比べて400ha(5%)減少した。これは、北海道等で他野菜への転換等による作付規模縮小があったためである。

10a当たり収量は3,650kgで、前年産並みであった。

この結果、収穫量は27万100tで、前年産に比べて1万3,800t(5%)減少し、出荷量は23万9,600tで、前年産に比べて1万2,700t(5%)減少した。

(ウ) 秋冬だいこんの作付面積は2万4,800haで、前年産に比べて700ha(3%)減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模の縮小等があったためである。

10a当たり収量は4,470kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は110万9,000tで、前年産に比べて2万6,000t(2%)減少し、出荷量は80万500tで、前年産に比べて8,900t(1%)減少した。

図2 だいこんの作付面積及び収穫量の推移

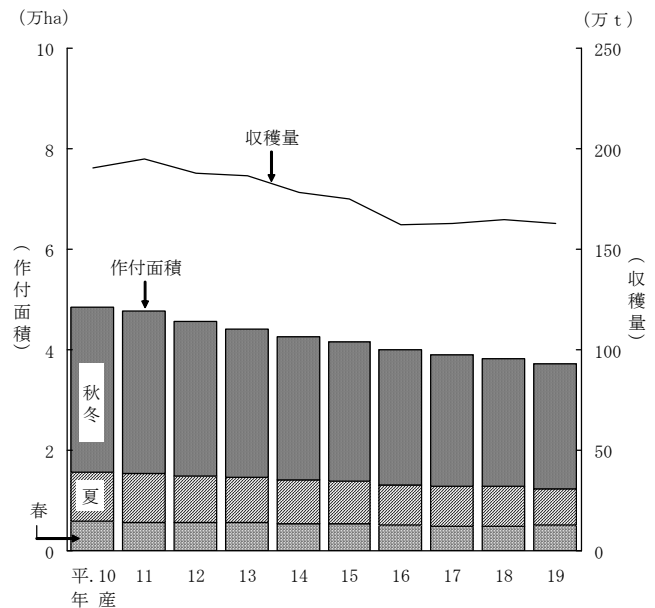


表2 平成19年産だいこんの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
						作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
だいこん	ha	kg	t	t					%	
	37 200	4 370	1 626 000	1 258 000	97	101	99	100	104	
春	5 010	4 930	247 000	217 800	101	106	107	108	104	
夏	7 400	3 650	270 100	239 600	95	100	95	95	107	
秋冬	24 800	4 470	1 109 000	800 500	97	100	98	99	103	

(2) にんじん

ア 作付面積

作付面積は1万9,100haで、前年産に比べて300ha（2%）増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,490kgで、前年産に比べて5%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は66万5,900tで、前年産に比べて4万1,800t（7%）増加した。

出荷量は58万4,800tで、前年産に比べて3万6,600t（7%）増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春夏にんじんの作付面積は4,260haで、前年産に比べて130ha（3%）増加した。これは、他野菜からの転換等による作付規模拡大等があったためである。

10a当たり収量は3,770kgで、前年産に比べて4%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は16万400tで、前年産に比べて1万600t（7%）増加し、出荷量は14万5,100tで、前年産に比べて1万3,500t（10%）増加した。

(イ) 秋にんじんの作付面積は6,580haで、前年産に比べて190ha（3%）増加した。これは、北海道で大規模選果場が新設されたこと等による作付規模拡大等があったためである。

10a当たり収量は3,320kgで、前年産に比べて13%上回った。これは、肥大が抑制されたことや、病害の発生があった前年産に比べ、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は21万8,500tで、前年産に比べて3万1,300t（17%）増加し、出荷量は19万2,900tで、前年産に比べて2万3,000t（14%）増加した。

(ウ) 冬にんじんの作付面積は8,260haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は3,470kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は28万6,800t、出荷量は24万6,700tで、ともに前年産並みとなった。

図3 にんじんの作付面積及び収穫量の推移

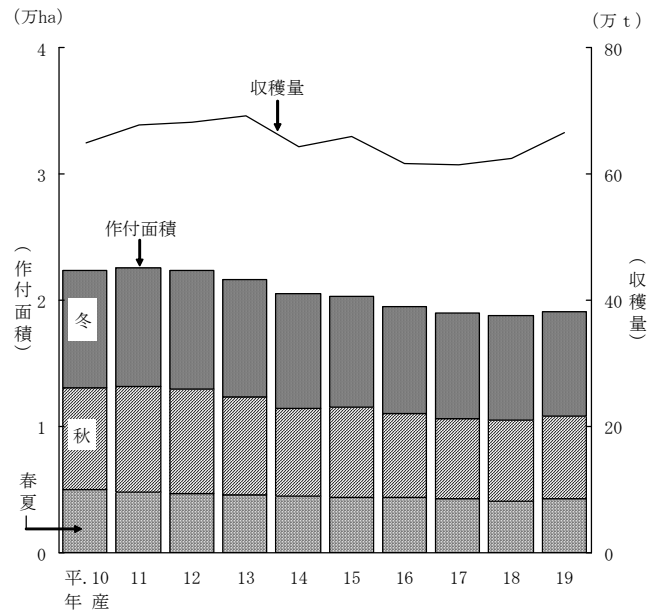


表3 平成19年産にんじんの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a当たり収量	収 穫 量	出 荷 量	
にんじん	ha	kg	t	t					%
	19 100	3 490	665 900	584 800	102	105	107	107	109
春夏	4 260	3 770	160 400	145 100	103	104	107	110	105
秋	6 580	3 320	218 500	192 900	103	113	117	114	112
冬	8 260	3 470	286 800	246 700	100	100	100	100	109

(3) ばれいしょ (じゃがいも)

ア 作付面積

作付面積は8万7,400haで、前年産に比べて800ha(1%)増加した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,290kgで、前年産に比べて8%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は287万3,000tで、前年産に比べて23万8,000t(9%)増加した。

出荷量は237万tで、前年産に比べて23万5,000t(11%)増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春植えばれいしょの作付面積は8万4,500haで、前年産に比べて900ha(1%)増加した。

10a当たり収量は3,350kgで、前年産に比べて8%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は282万8,000tで、前年産に比べて23万8,000t(9%)増加し、出荷量は234万tで、前年産に比べて23万6,000t(11%)増加した。

(イ) 秋植えばれいしょの作付面積は2,890haで、前年産に比べて40ha(1%)減少した。

10a当たり収量は1,540kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は4万4,400tで、前年産に比べて1,300t(3%)減少し、出荷量は3万500tで、前年産に比べて1,000t(3%)減少した。

図4 ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積及び収穫量の推移

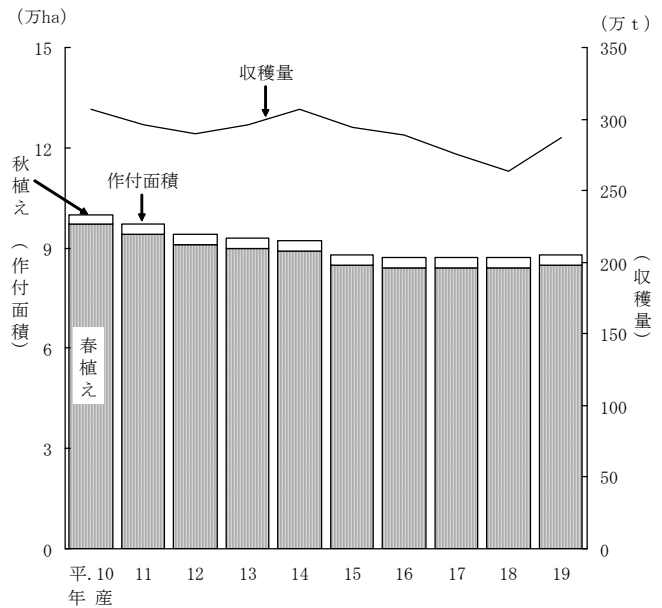


表4 平成19年産ばれいしょ(じゃがいも)の作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作 付 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
ばれいしょ (じゃがいも)	ha	kg	t	t					%
	87 400	3 290	2 873 000	2 370 000	101	108	109	111	101
春植え	84 500	3 350	2 828 000	2 340 000	101	108	109	111	102
秋植え	2 890	1 540	44 400	30 500	99	99	97	97	97

(4) さといも

ア 作付面積

作付面積は1万4,100haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,230kgで、前年産に比べて2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は17万3,200tで、前年産に比べて1,500t(1%)減少した。

出荷量は10万4,300tで、前年産に比べて1,600t(2%)増加した。

エ 季節区分別の概況

秋冬さといもの作付面積は1万4,100haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。これは、生産者の労働力事情や、他野菜への転換により作付規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は1,230kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、8月以降の少雨の影響により肥大が抑制されたが、その後おおむね順調に生育したためである。

この結果、収穫量は17万2,800tで、前年産に比べて1,500t(1%)減少し、出荷量は10万4,100tで、前年産に比べて1,600t(2%)増加した。

図5 さといもの作付面積及び収穫量の推移

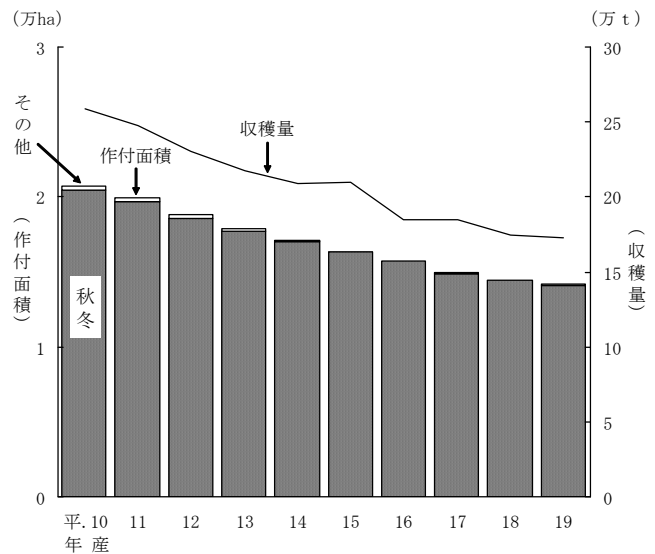


表5 平成19年産さといもの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
さといも	ha	kg	t	t					%
	14 100	1 230	173 200	104 300	98	102	99	102	100
うち、秋冬	14 100	1 230	172 800	104 100	98	102	99	102	100

(5) はくさい

ア 作付面積

作付面積は1万8,700haで、前年産に比べて600ha（3%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,910kgで、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は91万7,500tで、前年産に比べて2万4,800t（3%）減少した。

出荷量は70万4,700tで、前年産に比べて9,900t（1%）減少した。

エ 季節区別の概況

(ア) 春はくさいの作付面積は1,850haで、前年産に比べて80ha（4%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は5,770kgで、前年産に比べて2%下回った。これは、長野県で定植後の少雨と低温により、小玉傾向であったためである。

この結果、収穫量は10万6,800tで、前年産に比べて6,300t（6%）減少し、出荷量は9万4,900tで、前年産に比べて5,100t（5%）減少した。

(イ) 夏はくさいの作付面積は2,850haで、前年産に比べて40ha（1%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は6,240kgで、前年産に比べて6%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は17万7,800tで、前年産に比べて8,200t（5%）増加し、出荷量は16万500tで、前年産に比べて1万400t（7%）増加した。

(ウ) 秋冬はくさいの作付面積は1万4,000haで、前年産に比べて400ha（3%）減少した。これは、生産者の労働力事情や重量野菜の敬遠による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は4,520kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は63万2,900tで、前年産に比べて2万6,700t（4%）減少し、出荷量は44万9,300tで、前年産に比べて1万5,200t（3%）減少した。

図6 はくさいの作付面積及び収穫量の推移

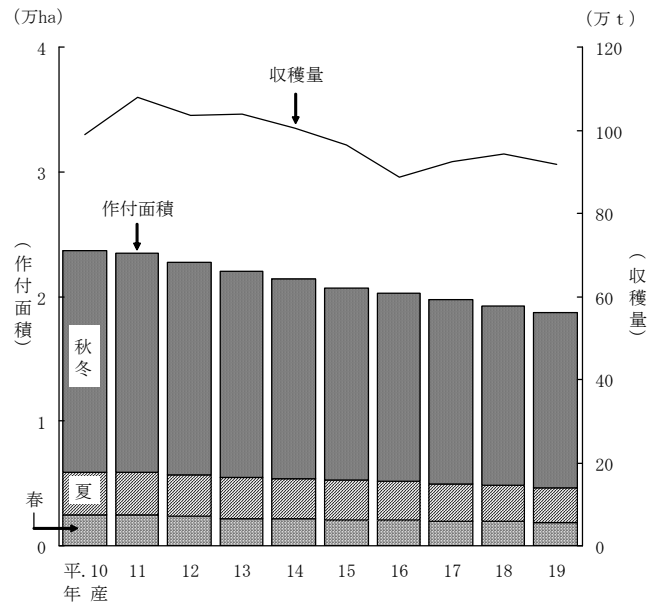


表6 平成19年産はくさいの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	出 荷 量	
は く さ い	ha	kg	t	t					%
	18 700	4 910	917 500	704 700	97	100	97	99	105
春	1 850	5 770	106 800	94 900	96	98	94	95	100
夏	2 850	6 240	177 800	160 500	99	106	105	107	106
秋 冬	14 000	4 520	632 900	449 300	97	99	96	97	106

(6) キャベツ

ア 作付面積

作付面積は3万2,700haで、前年産に比べて300ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,160kgで、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は135万9,000tで、前年産に比べて1万3,000t（1%）減少した。

出荷量は118万3,000tで、前年産並みとなった。

エ 季節区別の概況

(ア) 春キャベツの作付面積は8,710haで、前年産に比べて140ha（2%）増加した。これは、愛知県で他野菜からの転換による作付規模拡大があったためである。

10a 当たり収量は4,030kgで、前年産に比べて1%上回った。

この結果、収穫量は35万900tで、前年産に比べて7,900t（2%）増加し、出荷量は30万3,800tで、前年産に比べて8,400t（3%）増加した。

(イ) 夏秋キャベツの作付面積は1万haで、前年産に比べて200ha（2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は4,410kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は44万1,200tで、前年産に比べて2,200t（1%）増加し、出荷量は38万5,000tで、前年産に比べて6,900t（2%）増加した。

(ウ) 冬キャベツの作付面積は1万3,900haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は4,080kgで、前年産に比べて2%下回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれ肥大も良好だったものの、更に作柄の良かった前年産比に比べて下回ったためである。

この結果、収穫量は56万6,800tで、前年産に比べて2万3,100t（4%）減少し、出荷量は49万4,300tで、前年産に比べて1万3,700t（3%）減少した。

図7 キャベツの作付面積及び収穫量の推移

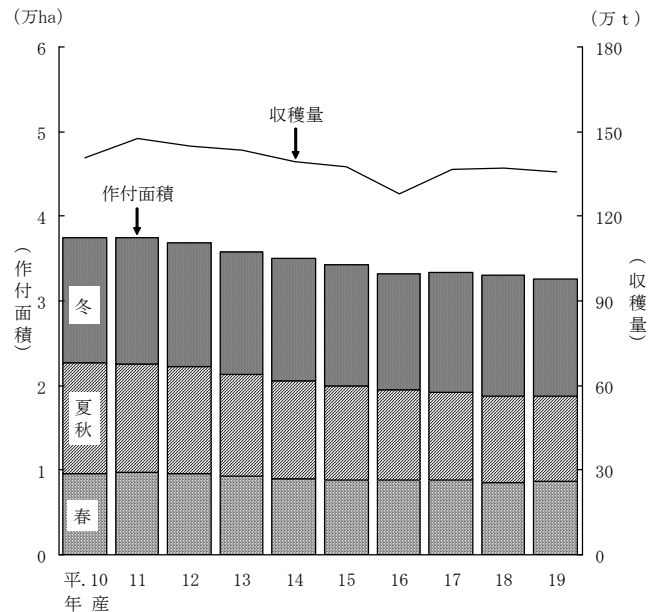


表7 平成19年産キャベツの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量 対 比
					作付面積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
キ ャ ベ ツ	ha	kg	t	t					%
春	8 710	4 030	350 900	303 800	102	101	102	103	101
夏 秋	10 000	4 410	441 200	385 000	98	103	101	102	109
冬	13 900	4 080	566 800	494 300	98	98	96	97	103

(7) ほうれんそう

ア 作付面積

作付面積は2万2,900haで、前年産に比べて400ha（2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,300kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は29万8,200 t で、前年産並みであった。

出荷量は24万1,900 t で、前年産に比べて2,100 t（1%）増加した。

図8 ほうれんそうの作付面積及び収穫量の推移

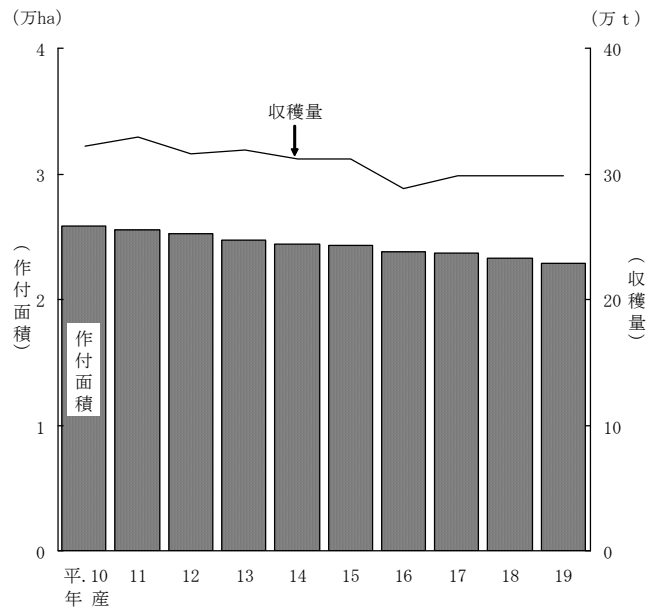


表8 平成19年産ほうれんそうの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 取	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収取	収 穫 量	出 荷 量	
ほうれんそう	ha	kg	t	t					%
	22 900	1 300	298 200	241 900	98	102	100	101	102

(8) レタス

ア 作付面積

作付面積は2万900haで、前年産並みとなった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,600kgで、前年産並みとなった

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は54万3,700tで、前年産並みとなった

出荷量は50万9,700tで、前年産並みとなった。

エ 季節区別の概況

(ア) 春レタスの作付面積は4,250haで、前年産に比べて150ha（3%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小があったためである。

10a 当たり収量は2,670kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は11万3,300tで、前年産に比べて1,200t（1%）減少し、出荷量は10万5,200tで、前年産に比べて2,000t（2%）減少した。

(イ) 夏秋レタスの作付面積は8,600haで、前年産並みとなった。

10a 当たり収量は2,760kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は23万7,000tで、前年産に比べて3,000t（1%）減少し、出荷量は22万6,500tで、前年産に比べて3,300t（1%）減少した。

(ウ) 冬レタスの作付面積は8,050haで、前年産に比べて90ha（1%）増加した。これは、他野菜からの転換等による作付規模拡大があったためである。

10a 当たり収量は2,410kgで、前年産並みとなった。

この結果、収穫量は19万3,600tで、前年産に比べて2,700t（1%）増加し、出荷量は17万8,200tで、前年産に比べて4,600t（3%）増加した。

図9 レタスの作付面積及び収穫量の推移

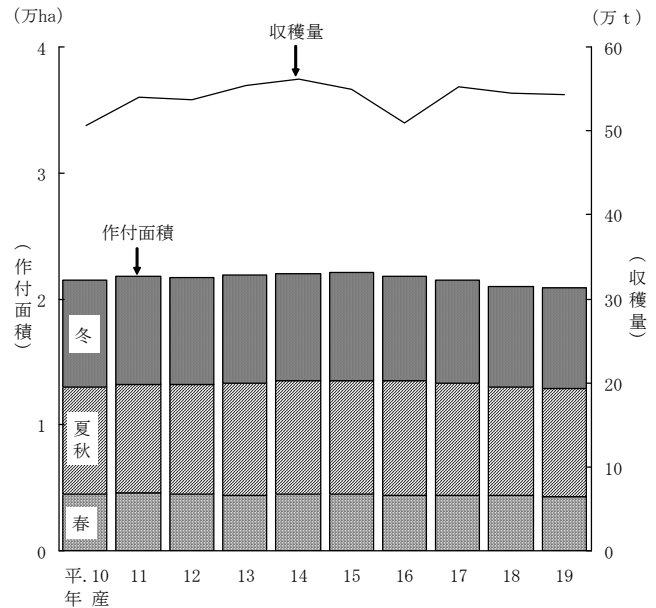


表9 平成19年産レタスの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収量	収 穫 量	出 荷 量	
レ タ ス	ha	kg	t	t					%
	20 900	2 600	543 700	509 700	100	100	100	100	103
春	4 250	2 670	113 300	105 200	97	103	99	98	99
夏 秋	8 600	2 760	237 000	226 500	100	99	99	99	103
冬	8 050	2 410	193 600	178 200	101	100	101	103	107

(9) ねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万2,500haで、前年産に比べて200ha（1%）減少した。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は2,200kgで、前年産に比べて2%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は49万4,800tで、前年産に比べて2,900t（1%）増加した。

出荷量は38万5,900tで、前年産に比べて7,100t（2%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 春ねぎの作付面積は3,330haで、前年産に比べて80ha（2%）減少した。

これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小があったためである。

10aあたり収量は2,530kgで、前年産に比べて10%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は8万4,200tで、前年産に比べて5,500t（7%）増加し、出荷量は7万2,900tで、前年産に比べて4,700t（7%）増加した。

(イ) 夏ねぎの作付面積は4,950haで、前年産に比べて50ha（1%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10aあたり収量は1,930kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

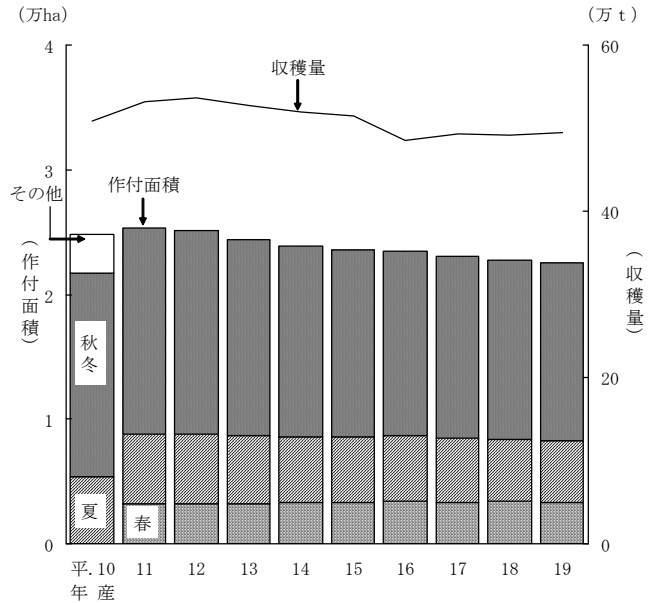
この結果、収穫量は9万5,700tで、前年産に比べて2,200t（2%）増加し、出荷量は8万1,300tで、前年産に比べて1,700t（2%）増加した。

(ウ) 秋冬ねぎの作付面積は1万4,300haで、前年産並みとなった。

10aあたり収量は2,200kgで、前年産に比べて1%下回った。

この結果、収穫量は31万4,900tで、前年産に比べて4,800t（2%）減少したが、出荷量は23万1,600tで、前年産並みとなった。

図10 ねぎの作付面積及び収穫量の推移



注：春ねぎは、野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）の一部改正により平成11年産から新たに調査対象となった。

表10 平成19年産ねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10aあたり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対 比
					作付面積	10aあたり収	収 穫 量	出 荷 量	
ね ぎ	22 500	2 200	494 800	385 900	99	102	101	102	102
春	3 330	2 530	84 200	72 900	98	110	107	107	101
夏	4 950	1 930	95 700	81 300	99	103	102	102	98
秋 冬	14 300	2 200	314 900	231 600	100	99	98	100	103

(10) たまねぎ

ア 作付面積

作付面積は2万4,300haで、前年産に比べて700ha（3%）増加した。これは、北海道で作付規模拡大があったためである。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は5,210kgで、前年産に比べて6%上回った。これは、生育期間の前半で低温の影響により一時生育が緩慢となったが、その後の天候に恵まれたためである。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は126万5,000tで、前年産に比べて10万4,000t（9%）増加した。

出荷量は111万8,000tで、前年産に比べて9万9,000t（10%）増加した。

図11 たまねぎの作付面積及び収穫量の推移

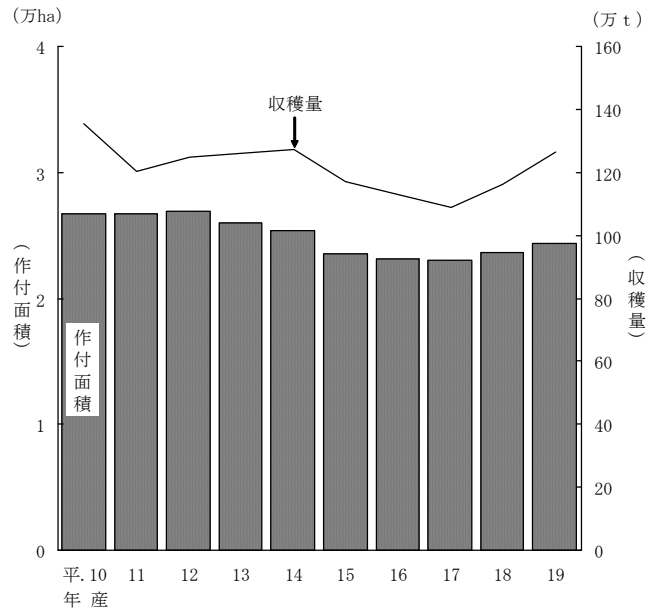


表11 平成19年産たまねぎの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対 比
					作付面積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	
た ま ね ぎ	ha	kg	t	t					%
	24 300	5 210	1 265 000	1 118 000	103	106	109	110	107

(11) きゅうり

ア 作付面積

作付面積は1万2,800haで、前年産に比べて300ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,010kgで、前年産に比べて4%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は64万1,000tで、前年産に比べて1万2,500t(2%)増加した。

出荷量は53万9,800tで、前年産に比べて1万3,500t(3%)増加した。

エ 季節区別の概況

(ア) 冬春きゅうりの作付面積は3,290haで、前年産に比べて90ha(3%)減少した。これは、生産者の労働力事情と原油価格の高騰による作付規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は10,100kgで、前年産に比べて7%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は33万3,300tで、前年産に比べて1万3,900t(4%)増加し、出荷量は30万9,300tで、前年産に比べて1万3,100t(4%)増加した。

(イ) 夏秋きゅうりの作付面積は9,490haで、前年産に比べて220ha(2%)減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a当たり収量は3,240kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は30万7,800t、出荷量は23万400tで、ともに前年産並みであった。

図12 きゅうりの作付面積及び収穫量の推移

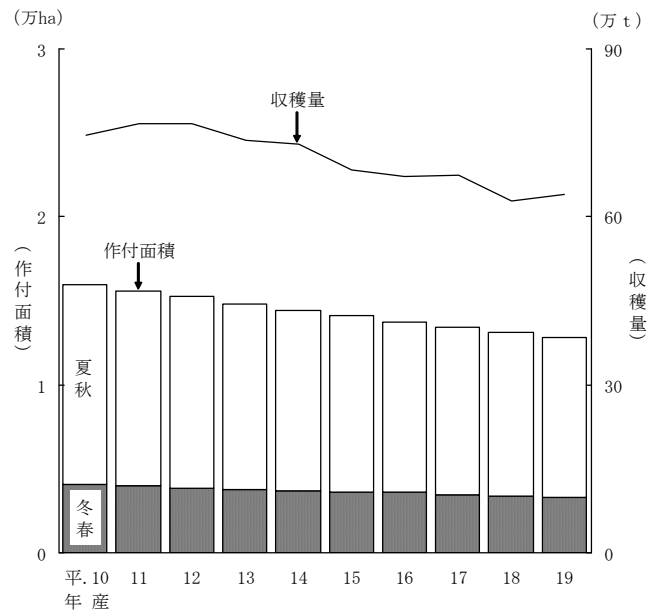


表12 平成19年産きゅうりの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
きゅうり	ha	kg	t	t					%
	12 800	5 010	641 000	539 800	98	104	102	103	101
冬春	3 290	10 100	333 300	309 300	97	107	104	104	102
夏秋	9 490	3 240	307 800	230 400	98	102	100	100	99

(12) なす

ア 作付面積

作付面積は1万800haで、前年産に比べて300ha（3%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は3,440kgで、前年産に比べて3%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は37万1,800tで、前年産並みとなった。

出荷量は27万8,100tで、前年産に比べて2,900t（1%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春なすの作付面積は1,350haで、前年産に比べて100ha（7%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は10,500kgで、前年産に比べて7%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は14万1,800tで、前年産並み、出荷量は13万3,600tで、前年産に比べて1,500t（1%）増加した。

(イ) 夏秋なすの作付面積は9,470haで、前年産に比べて200ha（2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は2,430kgで、前年産に比べて2%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は22万9,800tで前年産並み、出荷量は14万4,500tで、前年産に比べて1,400t（1%）増加した。

図13 なすの作付面積及び収穫量の推移

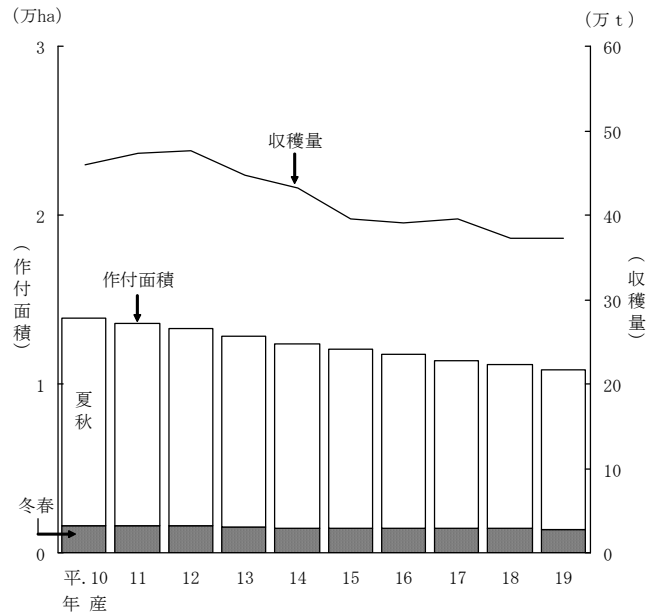


表13 平成19年産なすの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対 比
					作付面積	10a 当たり収	収 穫 量	出 荷 量	
な す	ha	kg	t	t					%
	10 800	3 440	371 800	278 100	97	103	100	101	100
冬 春	1 350	10 500	141 800	133 600	93	107	100	101	103
夏 秋	9 470	2 430	229 800	144 500	98	102	100	101	98

図14 トマトの作付面積及び収穫量の推移

(13) トマト

ア 作付面積

作付面積は1万2,700haで、前年産に比べて200ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,900kgで、前年産に比べて4%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は74万9,200tで、前年産に比べて2万900t(3%)増加した。

出荷量は66万3,800tで、前年産に比べて2万1,600t(3%)増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春トマトの作付面積は4,140haで、前年産並みとなった。

10a当たり収量は9,550kgで、前年産に比べて4%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は39万5,400tで、前年産に比べて1万6,700t(4%)増加し、出荷量は37万2,100tで、前年産に比べて1万8,900t(5%)増加した。

(イ) 夏秋トマトの作付面積は8,560haで、前年産に比べて190ha(2%)減少した。

10a当たり収量は4,130kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は35万3,700tで、前年産に比べて4,100t(1%)増加し、出荷量は29万1,700tで、前年産に比べて2,700t(1%)増加した。

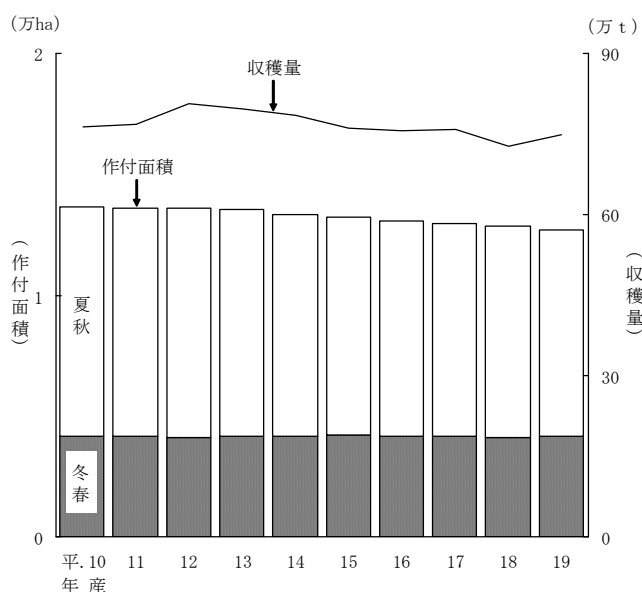
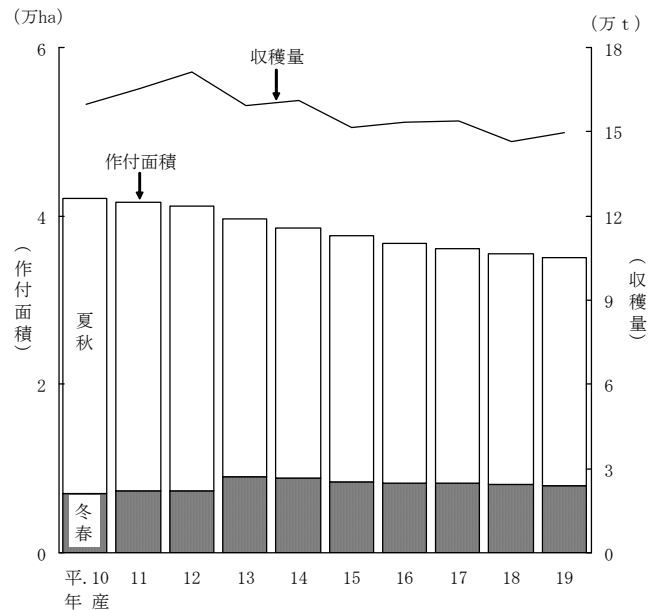


表14 平成19年産トマトの作付面積、収穫量及び出荷量

品目	作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	前年産対比(%)				(参考)平均収量対比
					作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
トマト	ha	kg	t	t					%
	12 700	5 900	749 200	663 800	98	104	103	103	101
冬春	4 140	9 550	395 400	372 100	100	104	104	105	103
夏秋	8 560	4 130	353 700	291 700	98	103	101	101	98

図15 ピーマンの作付面積及び収穫量の推移



(14) ピーマン

ア 作付面積

作付面積は3,500haで、前年産に比べて40ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は4,270kgで、前年産に比べて3%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は14万9,600tで、前年産に比べて2,800t（2%）増加した。

出荷量は12万8,300tで、前年産に比べて3,000t（2%）増加した。

エ 季節区分別の概況

(ア) 冬春ピーマンの作付面積は800ha

で、前年産に比べて15ha（2%）減少した。これは、生産者の労働力事情による作付規模縮小等があったためである。

10a 当たり収量は9,660kgで、前年産に比べて3%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は7万7,300tで、前年産に比べて1,000t（1%）増加し、出荷量は7万2,800tで、前年産に比べて1,400t（2%）増加した。

(イ) 夏秋ピーマンの作付面積は2,700haで、前年産に比べて30ha（1%）減少した。

10a 当たり収量は2,680kgで、前年産に比べて4%上回った。これは、生育期間をとおして比較的天候に恵まれたためである。

この結果、収穫量は7万2,300tで、前年産に比べて1,800t（3%）増加し、出荷量は5万5,400tで、前年産に比べて1,500t（3%）増加した。

表15 平成19年産ピーマンの作付面積、収穫量及び出荷量

品 目	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 取	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)				(参考) 平均収量対比
					作付面積	10a 当たり収取	収 穫 量	出 荷 量	
ピ ー マ ン	ha	kg	t	t					%
	3 500	4 270	149 600	128 300	99	103	102	102	103
冬 春	800	9 660	77 300	72 800	98	103	101	102	102
夏 秋	2 700	2 680	72 300	55 400	99	104	103	103	103